

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-126601

(43) 公開日 平成8年(1996)5月21日

(51) Int.Cl.⁹

A 4 7 L 13/52

識別記号

1 0 3

片内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 3 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平6-288774

(22) 出願日 平成6年(1994)10月28日

(71) 出願人 000178583

山崎産業株式会社

大阪府大阪市浪速区下寺3丁目18番7号

(72) 発明者 慶児 康昭

大阪市中央区南船場3丁目12番9号 心斎

橋プラザビル東館 山崎産業株式会社生産

本部内

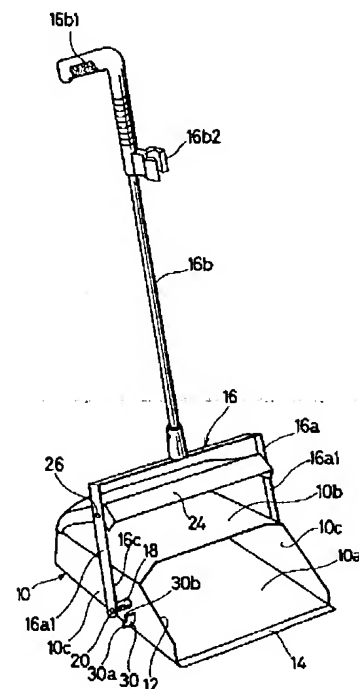
(74) 代理人 弁理士 高良 尚志

(54) 【発明の名称】 蓋付きちり取り

(57) 【要約】

【目的】 蓋体が掃き込み口部を開いて柄体の起立を保持した状態と、蓋体が掃き込み口部を開いたまま柄体を倒して全体の高さを低くした状態の何れをもとり得る。

【構成】 本体10に回動可能に連結した支持体16の杵部16aに、回動可能に蓋体24の先端部を連結する。本体10の天板10bの後端部に、支持体16が後傾起立した状態で本体10の天板10b部上を後方スライドしようとする蓋体24の後縁部を受止し得る上向き突出の受止部28を設ける。蓋体24が受止部28により受止された状態から蓋体24を支持体16の杵部16aに対し蓋体回動軸線の回りに上向きに回動させることにより、受止部28による受止を解除して支持体16を後倒し得る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】前部に掃き込み口部を開口する箱形状の本体と、本体を吊り上げて支持し得る支持体と、掃き込み口部を開閉する蓋体とを有し、支持体と本体とが、ほぼ掃き込み口部の掃き込み縁の方向に平行な本体回転軸線の回りに相対的に回転し得るよう、本体の側部に支持体の基部が連結されると共に、支持体に対し蓋体が、本体回転軸線に平行な蓋体回転軸線の回りに回転し得るよう連結され、支持体により吊り上げられた状態では、本体が掃き込み口部を上方に向けて起立して蓋体が掃き込み口部を覆い、支持体が起立し、本体が底板部にて対象面上に載置されて掃き込み口部を水平方向に向けた状態では、蓋体が掃き込み口部を開く蓋付きちり取りであって、支持体が後傾起立した状態で本体の天板部上を後方スライドしようとする蓋体を受止し得、蓋体の上向き回転によりその受止を解除して支持体を後倒し得る受止手段を備えたことを特徴とする蓋付きちり取り。

【請求項2】受止手段が、本体の天板部に設けられた、蓋体の後縁部を受止し得る上向き突部である請求項1記載の蓋付きちり取り。

【請求項3】受止手段が、本体の天板部に設けられた、蓋体の後縁部に設けられた下向き突部を受止し得る凹部である請求項1記載の蓋付きちり取り。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、柄で吊り上げれば本体の掃き込み口が蓋で覆われる蓋付きちり取りに関する。

【0002】

【従来の技術及び解決しようとする課題】掃き込み口部a1を有する箱形状のちり取り本体aの両側部に、柄体bの基部が回転自在に連結され、柄体bの中間部b3に蓋体cが連結された蓋付きちり取りは、次のように使用する。

【0003】すなわち、塵埃を本体aに掃き込む場合は、作業者が柄体bの端部b2を握って柄体bを立てたまま本体aを底板a3にて対象面上に載置して掃き込み口部a1を水平方向に向ける(図7)。それにより、蓋体cが掃き込み口部a1を開き、掃き込み口部a1から塵埃を本体a内に掃き込むことができる。また塵埃の掃き込みを終了して作業者が移動する場合は、作業者が柄体bにより本体aを吊り上げる。それにより、本体aが掃き込み口部a1を上方に向けて起立し、蓋体cが掃き込み口部a1を覆う(図8)。

【0004】ところが、従来の蓋付きちり取りは、蓋体cが掃き込み口部a1を開き、柄体bの起立が保持された状態で清掃対象面上の任意位置に放置して、清掃作業者が塵埃等の掃き集め等の作業をなし得、再び柄体bの上端部b2を握る際には清掃作業者が楽に握れるようにするために、蓋体cのヒンジdを、柄体bが後傾起立状態となる角度以上に回転し得ないよう構成したり、柄体

bが後傾起立状態となる角度以上に回転し得ないように柄体bの基部を受止するストッパeを本体aの側部に設けている。

【0005】そのため、本体aの底板部を対象面上に載置して掃き込み口部a1を開いた状態では、全体の高さが高いため、比較的高さの低い個所や狭隘な個所に本体aを差し入れて塵埃等を掃き込むことができなかった。

【0006】本発明は、従来技術に存した上記のような問題点を鑑み行われたものであって、その目的とするところは、蓋体が掃き込み口部を開いて柄体の起立を保持した状態と、蓋体が掃き込み口部を開いたまま柄体を倒して全体の高さを低くした状態の何れをもとり得る蓋付きちり取りを提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するための本発明の蓋付きちり取りは、前部に掃き込み口部を開口する箱形状の本体と、本体を吊り上げて支持し得る支持体と、掃き込み口部を開閉する蓋体とを有し、支持体と本体とが、ほぼ掃き込み口部の掃き込み縁の方向に平行な本体回転軸線の回りに相対的に回転し得るよう、本体の側部に支持体の基部が連結されると共に、支持体に対し蓋体が、本体回転軸線に平行な蓋体回転軸線の回りに回転し得るよう連結され、支持体により吊り上げられた状態では、本体が掃き込み口部を上方に向けて起立して蓋体が掃き込み口部を覆い、支持体が起立し、本体が底板部にて対象面上に載置されて掃き込み口部を水平方向に向けた状態では、蓋体が掃き込み口部を開く蓋付きちり取りであって、支持体が後傾起立した状態で本体の天板部上を後方スライドしようとする蓋体を受止し得、蓋体の上向き回転によりその受止を解除して支持体を後倒し得る受止手段を備えたものである。

【0008】

【作用】支持体の基部は本体の側部に回転可能に連結され、支持体により本体が吊り上げられた状態では、本体が掃き込み口部を上方に向けて起立し、支持体の中間部に設けられた蓋体は、掃き込み口部を覆う。

【0009】支持体と本体が本体回転軸線の回りに相対的に回転することにより支持体が起立して本体が底板部にて対象面上に載置された状態では、掃き込み口部が水平方向に向き、支持体の中間部に設けられた蓋体も本体回転軸線の回りに回転して掃き込み口部を開く。支持体が後傾起立した状態で、本体の天板部上を後方スライドしようとする蓋体を受止手段が受止するので、それによって、蓋体が掃き込み口部を開いた状態での支持体の後傾起立が保持される。蓋体を受止手段が受止した状態から、蓋体を支持体に対し蓋体回転軸線の回りに上向きに回転させることによりその受止を解除すれば、支持体の後傾起立状態が解除され、支持体を後倒することができる。

【0010】

3

【実施例】本発明の実施例を、図面を参照しつつ説明する。

【0011】図1乃至図6は何れも本発明の一実施例としての蓋付き椅子取りに関するものであって、図1は開蓋して柄体が後傾した状態の斜視図、図2は開蓋して柄体が後傾した状態の側面図、図3は閉蓋状態の側面図、図4は図3におけるIV-IV線要部断面図、図5は閉蓋完了の少し前の状態の図3におけるIV-IV線に相当する部分の要部断面図、図6は開蓋して柄体が後倒した状態の側面図である。

【0012】本体10は、基本的に直方体状をなす比較的偏平な(すなわち、高さが低い)箱形状である。本体10を形成する材料としては、合成樹脂、金属等を適宜採用し得る。本体10は、前部に掃き込み口部12を開口する。この掃き込み口部12は、本体10の底板10aの前縁部、すなわち掃き込み縁部14から後上方に向かって開口している。天板10bの前縁部が底板10aの前縁部よりも大きく後退しているので、ほうき等により塵埃等を本体10内に掃き込むのが容易である。掃き込み縁部14は、先端に向かって断面楔形状に薄くなる

合成ゴム板により形成されている。

【0013】支持体16は、略U字形状をなす枠部16aと、その枠部16aの中央部に枠部16aと同軸状に結合された棒状部16bからなる。棒状部16bの上端部は、後方に向かってL字形状に屈曲する握り部16b1に形成されている。握り部16b1の下端前部に、ほうき等の柄を嵌合保持し得る保持部16b2が設けられている。支持体16の枠部16aにおける両縦部16a1の下端部は、本体10のうち重心よりも前方の部分の側部10cに外向きに突設されたボルト20挿通用の円筒状突起18に対して、ボルト20及びナット22を用いて回動可能なよう連結されている。これによって支持体16と本体10は、ほぼ掃き込み口部12の掃き込み縁の方向に平行な本体回動軸線の回りに相対的に回動し得、支持体16により本体10を吊り上げると、本体10が掃き込み口部12を上方に向けて起立する。

【0014】蓋体24は、掃き込み口部12を覆うことができる形状をなし、合成樹脂等の材料を適宜選択して形成し得る。支持体16の枠部16aにおける両縦部16a1の上部間に、蓋体24の先端部が、本体回動軸線に平行な蓋体回動軸線の回り回動可能なようにピン26により連結されている。これにより、支持体16により本体10を吊り上げた場合に、蓋体24が掃き込み口部12を覆う(図3)。

【0015】支持体16と本体10とを本体回動軸線の回りに相対的に回動させることにより本体10を底板10aにて対象面上に載置して支持体16を起立させると、支持体16の枠部16aに蓋体回動軸線の回り回動可能なように先端部において連結された蓋体24は、本体回動軸線の回りに回動しつつ蓋体回動軸線の回りにも

4

回動して掃き込み口部12を開く。支持体16を後傾させると、蓋体24の後部において本体10の天板10b上を後方スライドしようとする。本体10の天板10bの後端部には、支持体16が後傾起立した状態で本体10の天板10b部上を後方スライドしようとする蓋体24の後縁部を受止し得る上向き突出の受止部28が設けられているので、蓋体24が受止部28により受止され、それによって、蓋体24が掃き込み口部12を開いた状態での支持体16の後傾起立が保持される(図1、図2)。なお、蓋体24の後縁部に下向き突部を設け、本体10の天板10b部に、その下向き突部を受止し得る凹部を設けることにより蓋体24を受止することも可能である。

【0016】蓋体24が受止部28により受止された状態から、例えば作業者が足で蓋体24の後部を押し上げることで、蓋体24を支持体16の枠部16aに対し蓋体回動軸線の回りに上向きに回動させることによって、容易に受止部28による受止を解除して支持体16を後倒し得る(図6)。

【0017】本体10の両側部における円筒状突起18の前方に、それぞれ本体10の側部から外方に張り出した制動ストッパ30が設けられている。制動ストッパ30の下端部は、外方に突出し、上側において支持体16の枠部16aにおける縦部16a1の前側16cを受止するストッパ部30aを構成する。ストッパ部30aは、蓋体24が掃き込み口部12を覆う際に、蓋体24が本体10の掃き込み口部12に接しない状態で支持体16と本体10との相対的回動を停止させるよう配設されている。

【0018】制動ストッパ30のうちストッパ部30aの上方の外側部は、本体摩擦部30bを構成する。本体摩擦部30bは、下方に向かって漸次外向きに張り出す。これにより、支持体16の枠部16aにおける縦部16a1の内側部のうち本体摩擦部30bに対応する支持体摩擦部16dとその本体摩擦部30bとが回動軸線方向に重なり合う幅が、ストッパ部30aにより支持体16と本体10の相対的回動が停止する回動角度に近づくに従って漸次増大する(図4、図5)。

【0019】本体10が底板10aにて対象面上に載置されて掃き込み口部12を水平方向に向け、蓋体24が掃き込み口部12を開いた状態から、支持体16により本体10を吊り上げると、支持体16と本体10が相対的に回動することにより、図3に示されるように支持体16が起立し、蓋体24が掃き込み口部12を覆う。その際、本体10と支持体16との相対的回動が、支持体16の枠部16aにおける縦部16a1の前側16cをストッパ部30aが受止することにより停止して蓋体24の閉蓋を完了する前に、支持体16の支持体摩擦部16dが制動ストッパ30の本体摩擦部30bと次第に強く圧接し、両者間の摩擦力が漸次増大して本体10と支

10

20

30

40

50

5

持体16の相対的回動の速度を漸次低減させる。

【0020】蓋体24が掃き込み口部12を覆う際に、本体10の掃き込み口部12と蓋体24が衝突することがなく、また、ストッパ部30aにより支持体16と本体10との相対的回動が停止する前に本体摩擦部30bと支持体摩擦部16dとの間の摩擦力が漸次増大して両者の相対的回動の速度が漸次低減するので、ストッパ部30aによる相対的回動停止の音も可及的に低減され、蓋体24が跳ねることもない。合成ゴム製の掃き込み縁部14に蓋部が接しないので、掃き込み縁部14の損傷も防がれる。

【0021】ストッパ部30a及びそれにより受止される杵部16aの縦部16a1の前側16cのうち一方又は両方、並びに本体摩擦部30b及び支持体摩擦部16dのうち少なくとも一方は、比較的弾力性のある合成樹脂等の材料により構成されることが望ましい。何れの場合も、作動により耳障りな音を発しない材料の組み合わせであることを要することは言うまでもない。

【0022】なお、以上の実施例についての記述における上下位置関係は、単に図に基づいた説明の便宜のためのものであって、実際の使用状態等を限定するものではない。また、以上の実施例についての記述における構成部品の寸法、個数、材質、形状、その相対配置などは、特にそれらに限定される旨の記載がない限りは、この発明の範囲をそれらにのみ限定する趣旨のものではなく、単なる説明例に過ぎない。

【0023】

【発明の効果】本発明の蓋付きちり取りでは、掃き込み口部を開いた蓋体を受止手段が受止し、支持体の後傾起立が保持された状態において、清掃作業者は、蓋付きちり取りを清掃対象面上の任意位置に放置したままで、ほうき等により塵埃等を掃き集め、必要に応じ支持体の上部を作業者が握って、塵埃等を掃き込み口部から本体内に掃き込むことができる。支持体は起立しているの

6

作業者は支持体の上部を楽に握ることができる。

【0024】而も、従来の蓋付きちり取りとは異なり、蓋体を受止手段が受止した状態から蓋体を上向きに回動させることによりその受止を解除すれば、支持体を後倒することができる。それによって、本体が底板部にて対象面上に載置され、掃き込み口部が開いた状態で、全体の高さを低くして全体の前後方向長さを長くすることができるので、比較的高さが低い個所や、比較的狭隘な個所の塵埃等を、本体を差し入れて容易に掃き取ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】開蓋して柄体の後傾した状態の斜視図である。

【図2】開蓋して柄体の後傾した状態の側面図である。

【図3】閉蓋状態の側面図である。

【図4】図3におけるIV-IV線要部断面図である。

【図5】閉蓋完了の少し前の状態の図3におけるIV-IV線に相当する部分の要部断面図である。

【図6】開蓋して柄体の後倒した状態の側面図である。

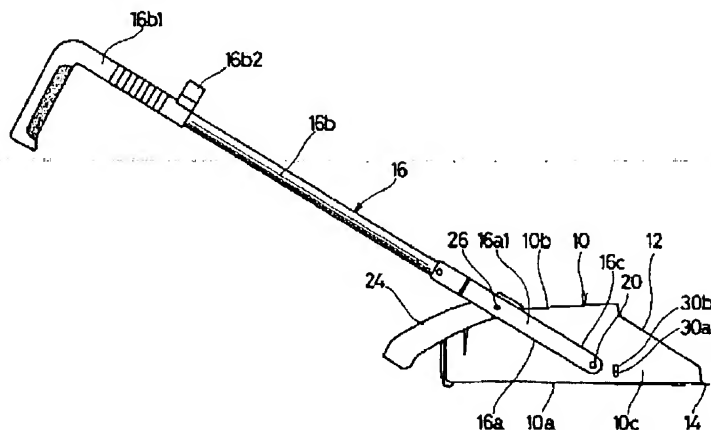
【図7】従来の蓋付きちり取りの開蓋して柄体の後傾した状態の斜視図である。

【図8】従来の蓋付きちり取りの閉蓋状態の側面図である。

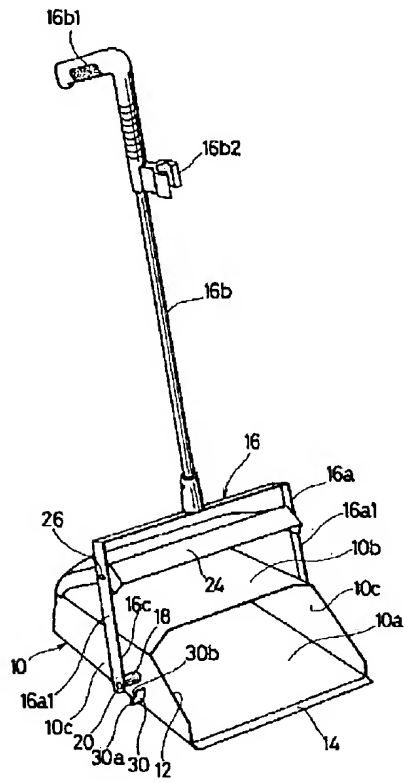
【符号の説明】

10	本体
12	掃き込み口部
16	支持体
16a	杵部
16a1	縦部
16c	前側
16d	支持体摩擦部
24	蓋体
28	受止部
30a	ストッパ部
30b	本体摩擦部

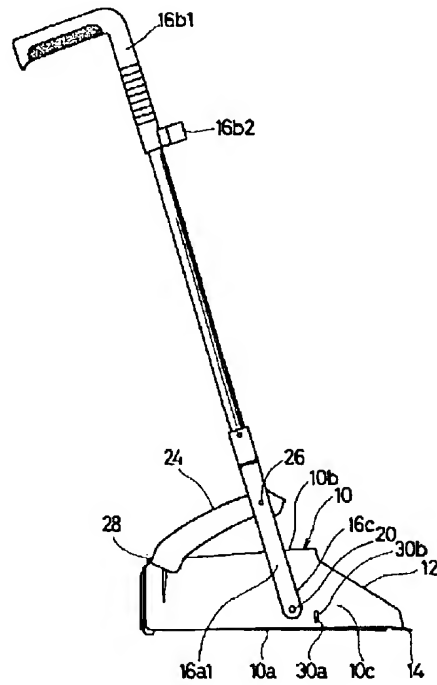
【図6】



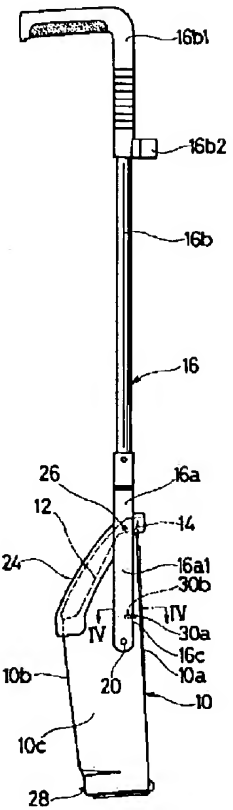
【図1】



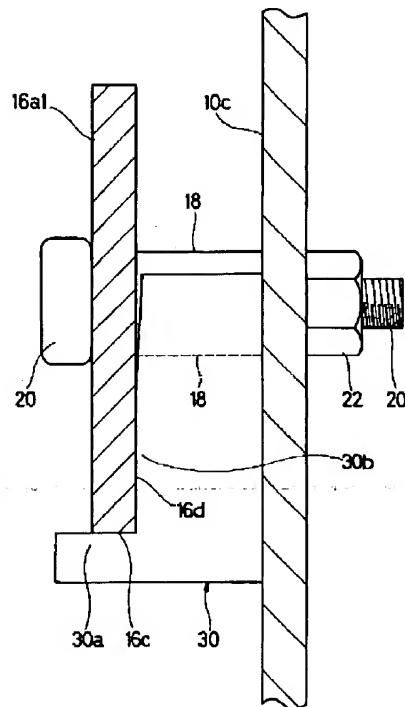
【図2】



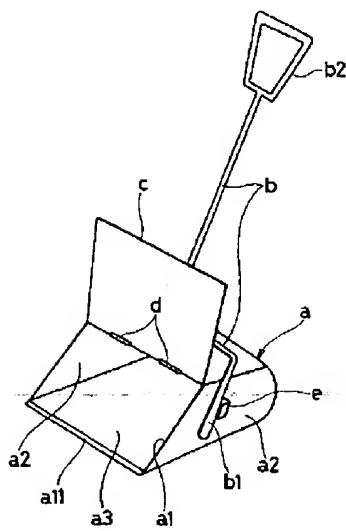
【図3】



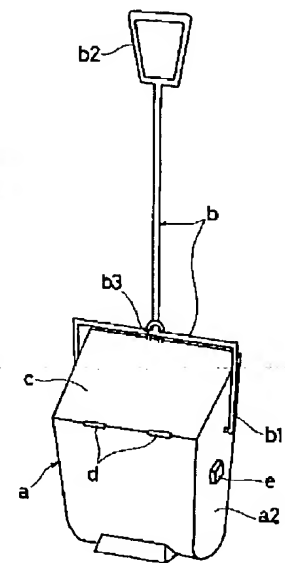
【図4】



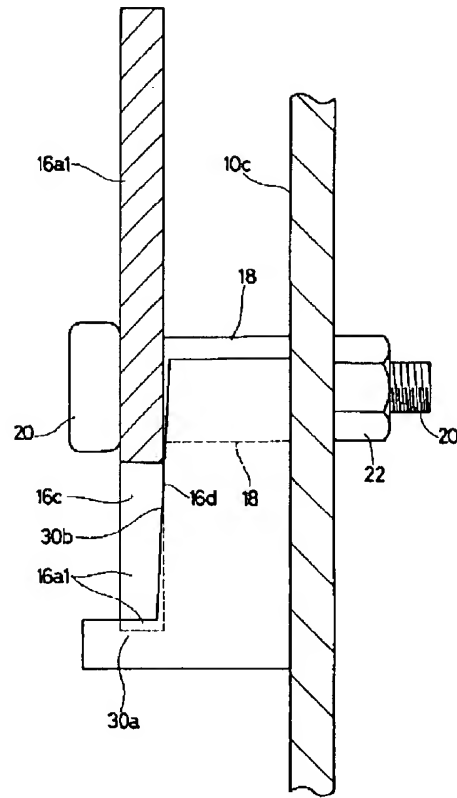
【図7】



【図8】



【図5】



PAT-NO: JP408126601A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08126601 A
TITLE: DUSTPAN WITH LID
PUBN-DATE: May 21, 1996

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
KEIJI, YASUAKI

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
YAMAZAKI SANGYO KK N/A

APPL-NO: JP06288774
APPL-DATE: October 28, 1994

INT-CL (IPC): A47L013/52

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a dustpan with lid capable of taking both of a state such that a lid member opens a sweep-up mouth part to hold the erection of a handle element and a state such that the handle element is brought down to reduce the height of the whole while the lid member opens the sweep-up mouth part.

CONSTITUTION: The leading end part of a revolvable lid member 24 is connected to the frame part 16a of the support element 16 connected to a main body 10 in a revolvable manner, and an upwardly protruding catching part capable of catching the rear edge part of the lid member 24

ready to slide
rearwardly in the top plate 10b. of the main body 10 in
such a state that the
support element 16 is erected in a rearwardly inclined
state is provided to the
rear end part of the top plate 10b of the main body 10. By
upwardly revolving
the lid member 24 around the revolving axial line of the
lid member 24 with
respect to the frame part 16a of the support element 16 in
such a state that
the lid member 24 is caught by the catching part, the
catching of the lid
member due to the catching part is released to allow the
support element 16 to
fall rearwardly.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO